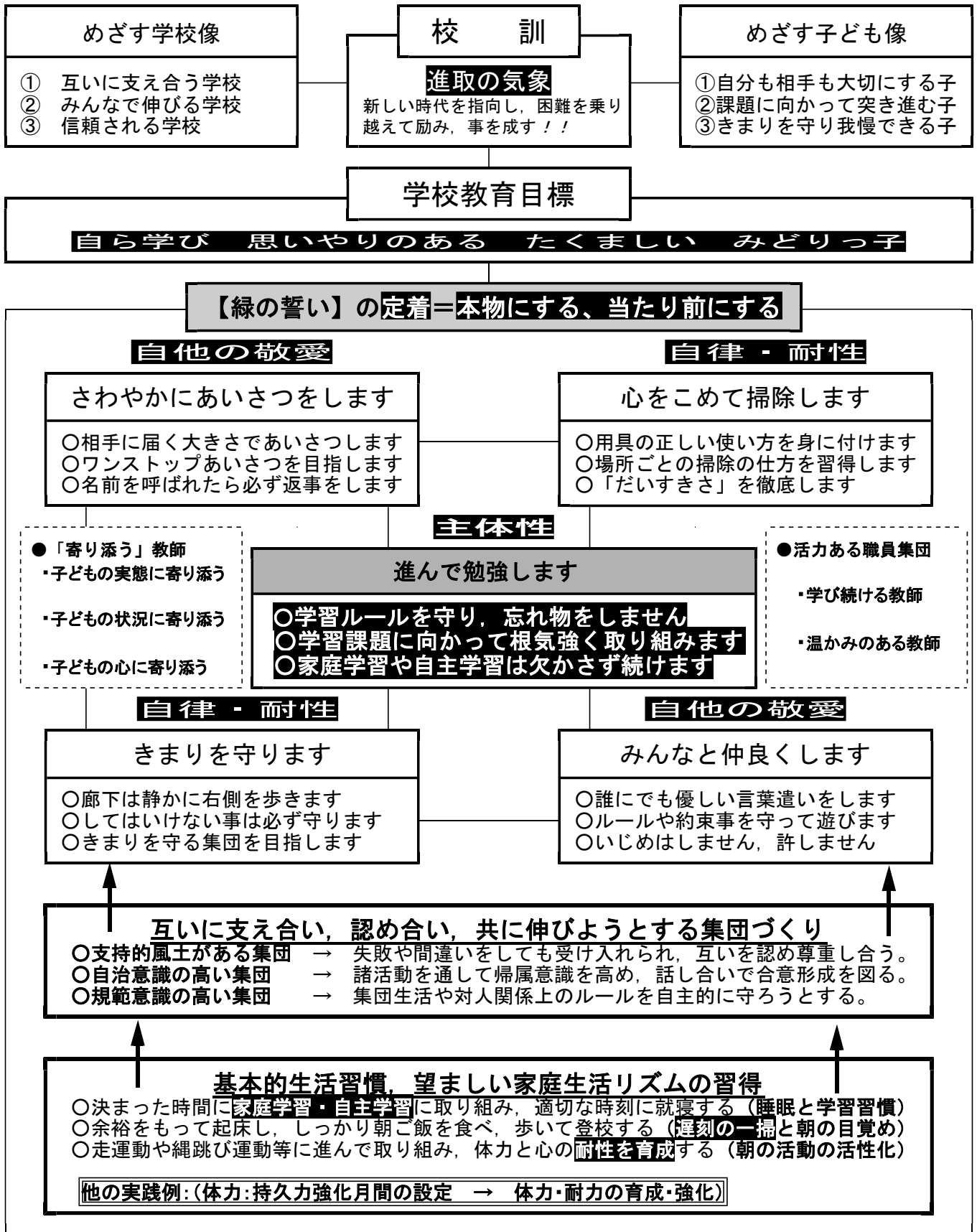


5 令和6年度 学校経営方針



1 具体的な重点内容, 共通実践事項

(1) 「緑の誓い」の本物として続くように(だれもが、いつでも、どこでも、ふつうに)

①昨年度までの学級・学年、委員会活動での取組の継続を！！

②最重要課題は「進んで勉強します」

- 読解力の育成:国語科を中心とした各教科での実践
 - ・校内研究:国語科を中心に、読解力の向上を図る → 他教科へ波及
 - ・子どもの「学びたい」気持ちをくすぐるめあての設定, 書く活動の設定
- 「スキルタイム」の充実
 - ・家庭学習内容と結んだ実践 例)宿題プリント → 答え合わせ → 学び直し・教え直し
 - ・学習内容と結んだ実践 例)学習内容の発展問題 → 答え合わせ → 学び直し・教え直し
 - ・8:30に1時間目開始徹 例)国語科プリント→言語領域のプリント(リーディングスキル育成)

※一昨年度作成したプリント集(データ版)の活用

- 学習規律の徹底
 - ・忘れものをしない
 - ・しっかり人の話を聞く
 - ・粘り強く取り組む(かたんにあきらめない、自分の頭で考える)
 - ・過去の指定研究(算数科研究)の実績と財産は、引き続き生かしていく。
- 家庭学習(宿題と自学)の定着と充実
 - ・学校での学習以外の学習時間の確保
 - ・学年の発達段階に応じた内容と量
 - ・「自学ノートコンテスト」のような賞賛と励ましの場の設定
 - ・内容によっては、タブレットを活用

(2) 共に育つ、共に育てる実践(教師と子ども・教師と教師)

①「教科担任制推進加配」を活用した「教科担任制」を見越した研究と実践

○高学年教科担任制実施(効果・成果と課題の把握)

○他学年は、可能な範囲で学年内「交換授業」の実施の試みを。

- ・教師の専門性を生かしたより質の高い授業のため
- ・同学年の子どもに2人の担任が深く関わることによる児童理解・生徒指導・学年経営の深化

○若手教員による先輩教員の授業参観

- ・「**恩送り**」の精神で、先輩教員から後輩教員へ教育技術等の伝達を！

○可能なら、「**校内留学制度**」も採り入れたい。→ 資質・能力の向上・人材育成

- ・特に若手教員の育成を図りたい

(3) 働きがいのある学校づくりのために

①働き方改革の推進

- ・定時退庁日
- ・一人一人の働き方改革
- ・**成績(通知表)の2学期制、夏季休業期間の短縮とそれによって増えた余剰時数の活用**
→**振り返りを行い、改善点を洗い出し次年度に生かす。**
- ・**週日課時程の模索**

②お互い様の精神で

- ・助け合い・支え合い
- ・「**チームみどり**」

※職員の入替わりも多かったので、お互いに声をかけ合い、「助け合い・支え合い」ながら教育活動に取り組んでいきたい。

(4) 信頼される学校づくりのために

①「誠意」ある指導・支援を

- ・誠意とは**スピード感**と**丁寧さ**
- ・子どもは笑顔で帰す。
(子どもの思いをいったん受け止めた上での指導・支援を)

「至誠にして動かざるものは、未だ之あらざる也」(孟子)

誠意を尽くして人と接したり仕事に取り組んだりすれば、周囲の協力を得てどんな難局であろうと乗り越えることができるという意味。心に留めておいていただきたい。

②教育は今日行く

怠慢(忘れていた)、緩慢(後でやろう、後でいいだろう)、傲慢(まあ、これくらいいいさ)の排除